

A dark, moody photograph of a room. In the foreground, a person is seen from behind, sitting at a piano. The piano has a dark wood finish and a bright light is reflecting off its keys. In the background, several people are sitting at a long table, their silhouettes visible against a bright window. The room is dimly lit, with a small framed picture on the wall to the left.

おうみ
映像ラボ
BOOK

vol.1 2014



おうみ 映像ラボ BOOK

2014

CONTENTS

平成26年度 おうみ映像ラボ 活動報告

- 3. — ラボ会・見聞会 vol.01
- 4. — ラボ会・見聞会 vol.02
- 5. — ラボ会・見聞会 vol.03
- 12. — 遠足 vol.01
～映画『ワキノタン』の撮影地・高島市朽木針畑を訪ねて～
- 14. — 上映会 vol.01
『結い魂（ゆいごん）』上映会とお話会～いきいきする瞬間～
- 16. — 上映会 vol.01 — お話会記録

おうみ映像ラボ
おうみ映像ラボは滋賀県内の伝統行事や生活記録が収められた映像を上映、発信していく団体です。滋賀を題材にした「記録映像」の情報を収集し、滋賀県各地で「情報収集・情報発信、見聞会・遠足、上映会」を行ふことで、古来より引き継がれてきた滋賀の美意識や技術や知恵、地域性・共同体のあり方について再認識する、世代を超えた「ミニミニティ」の場を創出していくます。

〈ラボ会 見聞会〉

情報収集した映像を持ち寄り、視聴し、見聞を広める公開型の例会です。初見の映像をみながら情報交換をすることが目的です。

〈遠足〉

映像の撮影地を訪れ、その地で映像を視聴し、地域の方々・映像製作者・地域文化と出会う企画です。

〈上映会〉
参加者を募り、映像を上映し、その映像について語り合う上映会です。

〈メンバー〉

長岡野里
大原歩
大藤寛子
藤野ひろ美

【ラボ会・見聞会 vol.01】

会日 2014年7月13日(日)
場 成安造形大学 生涯学習センター(大津市)

ゲスト 2作品上映
冨田知子さん
冨田知子さん、地蔵プロジェクト



映像上映会では、上映される映画や地域にまつわる食を用意。

味覚・視覚・聴覚で体感する場。

仰木の金柑の甘煮、かりんとう、チョコレート。

「琵琶湖の南東、甲賀油日で山崎敬さん、栖野(すみの)さん一家が4町余の広大な土地で百姓を営んでいた。奥さんの栖野さんは12歳のころ、草も生えてない荒野だったこの地に入植家族の一員として住むようになり、以後波乱に充ちた人生を送っている。私は、そんな栖野さんの人生を辿るべく、昨秋から度々山崎家を訪れている。そして長年続けてきた養蚕が今年も行われた。6月15日から1ヶ月半・・・私は蚕の一生を夢中で追つた。」

『かみこやしなひ草』

2008年制作 / 55分

監督: 冨田知子 / 出演: 山崎栖野他 /撮影・編集: 冨田知子 / 音楽: McKennitt & Quinlan Road



『仰木映像絵巻』

2008年制作 / 15分

編集: 地蔵プロジェクト

滋賀県大津市仰木地区に

て昭和40~60年代の暮らしの中で撮影された8ミリ映像を編集しまとめた映像。田植えや稲刈りの風景などが映し出されています。

2000年から仰木地区で活動する「地蔵プロジェクト」の地域での聞き取り調査から発見され、仰木地区の「小椋神社鎮座1150年記念」として編集・公開されました。



【ラボ会・見聞会 vol.02】

会場 成安造形大学 生涯学習センター（大津市）
2014年9月23日（火・祝）
2作品上映
ゲスト 中川豊一さん（株式会社金壽堂）



「音を目で伝えたい」
「鐘の音が持つ力をライブ感で伝えたい」
中川さんのことばに、
伝統技術が動き出す時を目にした気がします。

滋賀県東近江市に残る铸造所のひとつで、300年の伝統を持つ「西澤梵鐘铸造所」（五個荘三俣町）での铸造作業の記録映像。国立民族学博物館が1995（平成7）年5月9日から7月5日の約2ヶ月間にわたり、大型青銅製品である梵鐘を铸造する全工程を詳細に撮影した学術映像記録です。みんぱく映像民族誌第12集に収録されています。「鐘の製作工程を通して、日本の伝統的な铸造技術や铸造師とよばれた職人の仕事の実態を知ることができます。」——作品解説より抜粋

1997年制作／72分
制作：国立民族学博物館
監修：近藤雅樹
協力：吉田晶子

滋賀県東近江市に残る铸造所のひとつで、300年の伝統を持つ「西澤梵鐘铸造所」（五個荘三俣町）での铸造作業の記録映像。国立民族学博物館が1995（平成7）年5月9日から7月5日の約2ヶ月間にわたり、大型青銅製品である梵鐘を铸造する全工程を詳細に撮影した学術映像記録です。みんぱく映像民族誌第12集に収録されています。「鐘の製作工程を通して、日本の伝統的な铸造技術や铸造師とよばれた職人の仕事の実態を知ることができます。」——作品解説より抜粋

『梵鐘づくり
滋賀県・五個荘町』

2014年制作／20分
制作：株式会社金壽堂
監修：長岡野亞
撮影・編集：株式会社 Prism

『金壽堂 梵鐘づくり +
梵鐘風鈴イメージPV』



滋賀県東近江市長村の梵鐘の铸造をしている株式会社「金壽堂」で、今年から取り組み始めた鐘風鈴のプロモーションビデオ（PV）と、梵鐘づくりの記録映像。見聞会では、ゲストとして「金壽堂」の中川豊一さんをお招きし、鐘の音を聞き比べながら音の広がりと素材の違いや、梵鐘づくりの技術を今後も続けていくために今年取り組み始めた事業についてお話をいただきました。

【ラボ会・見聞会 vol.03】

風と土の交藝 in 琵琶湖高島2014 風と土の交座

おうみ映像ラボ・見聞会×旅籠を蘇らせる・今津北浜「福田屋」プロジェクト

日 2014年12月6日 (土)

会場 福田屋 (滋賀県高島市今津町今津76)

協力 高島市教育委員会、株式会社モアイ、福田屋プロジェクトチーム、風と土の交藝プロジェクトチーム

高島市内の手しごと作家さんの工房や住まいを巡る「風と土の交藝 in 琵琶湖高島2014」の中の「風と土の交座」という取り組みでラボ会・見聞会を開催しました。

会場は北国海道の琵琶湖畔、近江今津にてと料理旅館の『福田屋』。

道沿いの建物は江戸時代に、琵琶湖に近い奥の建物は昭和13年に建てられたもの。高島市内の新旭水鳥観察センター や カフェラックを経営する(株)モアイが、2013年夏から福田屋を修復し、再び現代の旅籠として蘇らせる「福田屋プロジェクト」

が動いており、その改修途中の建物が会場となりました。上映作品は、高島市教育委員会が所蔵し、「高島市デジタル博物館」として公開している記録映像など20本。天候がみぞれ、吹雪、快晴、暴風、大雨などコロコロと変わる中、福田屋の中では、コタツでゆっくり生姜湯などを飲みつつ、祭礼映像を見ながらみなさんと懐かしい思い出をたどる時間が生まれました。



江戸期の改修途中の建物の中で、20～30年前に滋賀で制作された伝統行事等の記録映像を上映。当時の人の思い、今は途絶えてしまった伝統行事等について再考する面白さを感じました。





『びわこ祭 祭ダイジェスト』

2003年制作／20分01秒

制作：今津町教育委員会

「近江今津ふるさと夏まつり」（通称びわこ祭）の

ダイジェスト映像。花火大会、大きな櫓で高島音頭を音頭取りが生唄で歌い上げる中、地域の皆さんが浴衣姿で総踊り。また、会場に灯籠がともされたてる様子が収録されています。総踊りの輪の中に、地域の銀行など会社のプラカードがあるのが地域性をあらわしています。

0:00 花火シーン
4:29 盆踊り（音頭取り生唄・三味線・金）・灯籠



『海津力士祭』

2004年制作／8分6秒

制作：高島市教育委員会

毎年4月29日に行われる滋賀県高島市海津町にある

海津天神社の春の例大祭、通称「力士まつり」の記録映像。ふんわりに化粧まわしを着けた若者に担がれた御輿2基が、「ヨーヤサージャー」の掛け声を響かせながら、各町内をまわる渡御や、松明を灯して「おねり」が行われます。この祭は、「海津港が北陸から京への塩や米の輸送基地として賑わった約300年前から始まったといわれ、回船問屋で働く若者たちが力士をまねて化粧まわしを着け、美しさを競つたのが始まり」といわれています。

0:00 花火シーン
4:29 盆踊り（音頭取り生唄・三味線・金）・灯籠



『古屋六斎念佛踊』

2004年制作／22分35秒

制作：朽木村教育委員会

滋賀県高島市朽木古屋（ふるや）に伝わる六斎念佛踊りの記録映像。滋賀県

下でも数少ない民俗芸能として、平成10年に滋賀県選択無形民俗文化財に選定され、魅力的な音色と踊りが受け継がれています。字幕解説あり。

0:00 家を参る様子

00:44 先念佛
02:24 ハノマイ
05:32 ウチアゲ

06:27 ロクグダン
09:50 後念佛
13:33 古屋玉泉寺
14:00 先念佛
15:33 オヒヒヤル
19:35 オヒヒヤル



『弘川祭』

2003年制作／28分

制作：今津町教育委員会

毎年4月29日、滋賀県高島市今津町弘川にある阿志都弥神社・行過天満宮を中心

に奉納される「弘川祭」の記録映像。午前は、神饌物が奉納され、子ども神輿、お囃子に合わせた踊りが行われます。午後は若者達がかつぐ神輿が中浜の住吉神社・南浜の大水別神社へ向い、神事が執り行われた後、阿志都弥神社・行過天満宮までもどります。神輿の奉納が終わると、午前中に奉納された神饌物を「くろじい」・「かみしむ」と呼ばれる衣装を纏つた「当座」の人たちが古式に則り神殿に献上します。

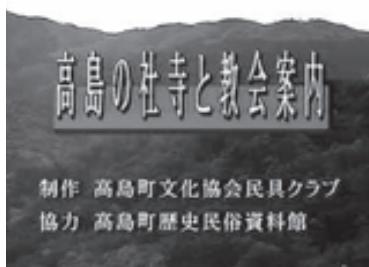
参考：滋賀県観光情報

参考：滋賀県観光情報



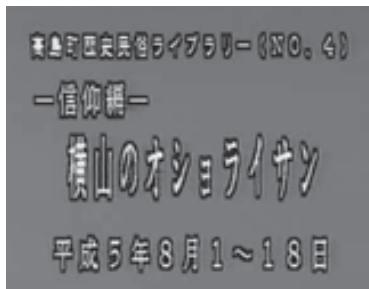
『川上祭』

2003年制作／57分36秒
制作：今津町教育委員会
毎年4月18日、滋賀県高島市今津町酒波（さなみ）の日置神社（上の宮）、北仰（きとげ）の津野神社（下の宮）、両社の祭礼として盛大に行われている「川上祭」の記録映像。お囃子やサンヤレ踊りなど、古くから祭りの様式を現代に伝える民俗資料としての評価も高く、昭和63年には県の選択無形民俗文化財にも選ばれる。映像では、大轍（おのぼり）と神輿渡御、サンヤレ踊りの様子や、流鏑馬（やぶさめ）などが行われる様子がダイジェストでまとめられています。



『高島の社寺と教会案内』

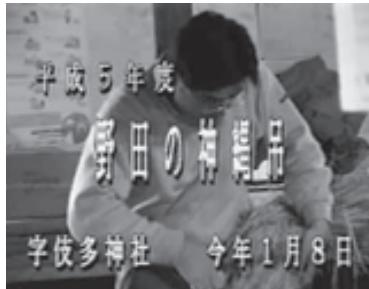
2003年制作／31分55秒
制作：高島町文化協会民具クラブ
滋賀県高島市（旧高島町）の社寺と教会について紹介する記録映像。旧高島町全域の社寺・仏閣・教会・道端の祠などを紹介。白髭神社、日吉神社、最勝寺、淨照寺、分部神社、徳喜寺、三嶋待神社、妙林寺、キリスト教会、勝安寺、金光教会、流泉寺、圓光寺、大善寺、瑞雪禪院、日吉神社などがナレーション付きで解説されています。



『横山のオショライサン』

1993年制作／26分10秒
制作：高島町文化協会民具クラブ
滋賀県高島市武曾横山の地域に引き継がれるお盆行事の記録映像。「高島町歴史民俗ライブラリー 信仰編（NO.4）」として制作されました。天台宗である横山大清寺の檀家さんのお盆行事の様子を、日を追って記録しています。

8月7日清墓、仏具磨き、墓参り、13日精進料理、オショライサン迎え、お上人さん参り、オショライサン送り、盆踊り、施餓鬼供養、ご詠歌などがナレーション付きで解説されています。



『野田の神縄吊』

1993年制作／16分46秒
制作：高島町文化協会民具クラブ
滋賀県高島市野田地区にある宇伎多神社で引き継がれる注連縄づくりの神事の映像記録。年の内、穢れのない村人によつて神縄をつくる作業の様子。縄を神棚に奉り、その前で神事を行い、その後、町内を縄を持つて列になりながら各家を巡ります。また、ほら貝をふきながら練り歩き、最後に神社の鳥居へ神縄を吊り上げる一連の行程がまとめられています。

亥の子行事

白山神社（宮野地区）

『亥の子（イネコ）行事』

制作年不明／13分46秒

制作：高島町文化協会民具
クラブ

滋賀県高島市宮野地区に
引き継がれている亥の子行
事の記録映像。毎年11月は
じめの亥の日に宮野地区の
白山神社や各家の玄関前で
小学生が唄を唱えながらズ
イキを巻いた藁包で地面を
ポンポンと叩き巡る行事。
農神（地靈）を鎮めまつる
行事とされています。

「ひのこる、祝いましょうかな。
いのこる、ぼたもち、ねいわい
な、たへいこーじこんこい、
じゅうやのばんに、じゅうばこ
ひろげて、あけてみたればぼこ
ほこまんじゅう、たぬきのきん
たま、はつちよろけ。イトさん、
ボンさん、ねてえかえ、おきて
かえ、新米わらで祝いましょ、
もひとつ祝つて帰りましょ。お
まけに、もひとつ祝いましょ。」
参考：映像より文章抜粹

民俗信仰編(NO.6)

北鴨の八朔祭

平成6年度(民具クラブ制作)

『北鴨の八朔祭』

1994年制作／12分10秒

制作：高島町文化協会民具
クラブ

滋賀県高島市鴨（旧北鴨
村）の志田志神社で続いて
きた五穀豊穣を祈る八朔祭
を復活した様子をまとめた
記録映像。「高島町歴史民
俗資料ライブラリー—民俗
信仰編（NO.6）」として制
作されました。旧暦8月1
日「田の実（たのみ）の節
句」として、9月1日午後
7時、祭礼の準備。午後7
時半祝詞・神事。午後8
時、拝殿にて直来（なおら
い）が行われます。第一献
(カワラケ・じゃこ)、第二
献青竹の盃・(ニシン・唐
辛子の煮物・柿の葉にのせ
て)、第三献（ウリ）が詳
しく紹介されています。



『ブマ屋』

1993年制作／14分36秒

制作：高島町文化協会民具
クラブ

滋賀県高島市（旧高島町）
で行われている建造物をそ
のままの形で移動させる
「ブマヤ」の映像記録。「高
島町歴史民俗資料ライブラ
リー（NO.2）」として制作
されました。高島町では江
戸末期頃に松井米蔵がはじ
めた「ブマヤ」を現在の株
式会社松井工業が引き継い
でおり、この映像には新旧
の道具を使いながら、納屋
移動を行う作業の様子が収
録されています。



『大溝祭』

1991年制作／8分17秒

制作：高島町文化協会民具
クラブ

大溝祭は、滋賀県高島市
(旧高島町) 勝野（大溝藩
城下町）に鎮座する日吉神
社の例祭。湖西地方随一の
曳山祭として滋賀県選択無
形民俗文化財に選ばれまし
た。現在は、5月3月が宵
宮祭、4日が本祭、5日が
後宴祭となつており、映像
では、5月3日宵宮、5月
4日本祭りの曳山の様子が
紹介されています。

辛子の煮物・柿の葉にのせ
て)、第三献（ウリ）が詳
しく紹介されています。

参考：映像より文章抜粹

2006年制作／55分47秒
制作：高島市教育委員会・
朽木村史編さん室
滋賀県高島市朽木麻生の
若宮神社にて正月の元旦祭
において行われる「しいら
切り」という行事の映像記
録。大晦日に「モ（荒く編
んだムシロ）」に包んで仮屋
の鴨居につるしておいた
「シイラ」という海水魚を
作法にのつとつて切り分け
神前に供えるという行事。
12月25日切り役付けくじ引
き、12月31日元旦祭前日準
備（シイラを「モ」で包み鴨
居につるす）、1月1日元
旦祭の様子（天上式・しい
ら切り・三献の儀）がまと
められています。



『元旦祭 ーしいら切りー』

『通々杵（ににぎ）神 社 例大祭』



1998年制作／127分45秒
制作：朽木村教育委員会
滋賀県高島市朽木宮前坊
の通々杵（ににぎ）神社
例大祭の記録映像。
5月9日「幣挟み（へ
さみ）」という祭礼に使用
する御幣（ごへい）、神饌
の花びら餅や神輿に備える
「野老（ところ）」の準備作
業が行われ、5月10日例祭
行列・神輿渡御・御旅所行
事「幣振り」・神輿還御の
様子など祭事の様子はもちろ
ん、祭礼役員が祭り解説
が収録されています。

※参考 映像内解説より

1994年制作／35分35秒
制作：高島町文化協会民具
クラブ
滋賀県高島市（旧高島町）
の自然と四季について詳し
い解説ナレーションが入る記
録映像。平成7年度高島町
文化祭参加作品として制作
された。白髭神社、岩戸社、
鵜川四十八体石仏、乙女ヶ
池、大溝城跡、大溝藩分部
家跡、近藤重蔵翁墓所、長
谷寺、音羽山古墳、四高櫻
の碑、鴨稻荷山古墳、（当時）
高島町歴史民俗資料館、打
下のくさ地蔵、永田のホウ
カイさん、乳地蔵、勝野津



『高島の自然と四季』

『高島名所 旧跡めぐり』

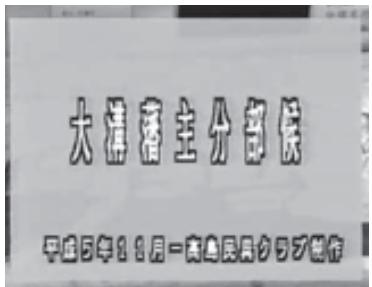


1991年制作／21分9秒
制作：高島町文化協会民具
クラブ
滋賀県高島市（旧高島町）
の自然と四季について詳し
い解説ナレーションが入る記
録映像。平成7年度高島町
文化祭参加作品として制作
された。白髭神社、岩戸社、
鵜川四十八体石仏、乙女ヶ
池、大溝城跡、大溝藩分部
家跡、近藤重蔵翁墓所、長
谷寺、音羽山古墳、四高櫻
の碑、鴨稻荷山古墳、（当時）
高島町歴史民俗資料館、打
下のくさ地蔵、永田のホウ
カイさん、乳地蔵、勝野津

が紹介されています。

や、お赤飯づくりをするお
母さんのインタビューが収
録されているところが興味
深いです。

旦祭の様子（天上式・しい
ら切り・三献の儀）がまと
められています。



『大構藩主 分部(わけべ)候』

1993年制作 / 18分29秒

制作 : 高島町文化協会民具

クリップ

協力 : 三重原河芸町教育委員会生涯学習課副参事は次

文夫氏、田光禪寺、高島町歴史民俗資料館

秀吉に仕えて伊勢上野

で大名となつた分部家は、

関ヶ原役で功を挙げて2万

石となり、一代光信が大坂

の陣後に近江国大溝に移さ

れた後、廢藩置県まで大溝

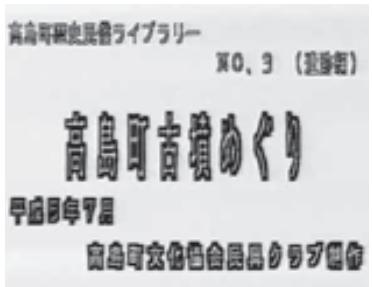
藩主として統治した。この

映像は、分部光信により築

城された大溝城や整備され

た城下町や町名など、今に

残る代々の分部家の歴史・史跡をめぐりながら、ナレーシヨン付きで解説しています。



『高島町古墳めぐり』

1994年制作 / 17分50秒

制作 : 高島町文化協会民具

クリップ

いにしえの北国海道が通る高島町の古墳めぐり映像。

「高島町歴史民俗資料

ライブラリー——遺跡編

(NO.3)」として制作されま

した。鴨稻荷山古墳、天王

橋、繼体天皇の胞衣(えな)

塚、彦主人王陵墓参考地(王

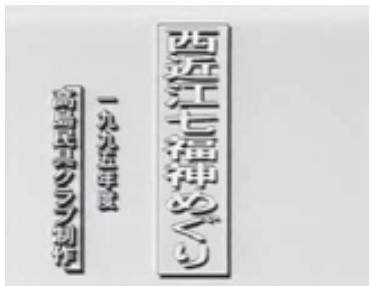
塚)、セモタレイシ(三尾

神社跡)、三重生神社、坂

烟古墳、白鬚神社古墳群、

四十八体古墳群、音羽古墳群についてナレーシヨン)。

字幕付きで解説しています。



『西近江七福神めぐり』

1995年制作 / 15分53秒

制作 : 高島町文化協会民具

クリップ

協力 : 西近江七福神奉安会、玉泉寺・行過天満宮・正傳

寺・西江禪寺・白髭神社・

大崎寺・川裾宮唐崎神社・

高島町歴史民俗資料館

滋賀県高島市にまつられ

る七福神を紹介する映像。

〈布袋尊〉玉泉寺(安曇川

町)、〈福縁寿神〉行過天満

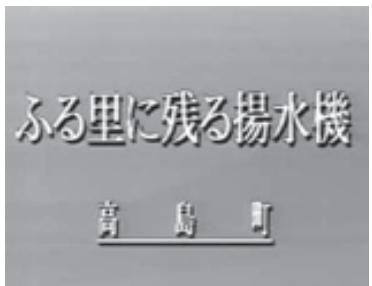
宮(今津町)、〈大黒天〉正

傳寺(新旭町)、〈弁財天〉

西江禪寺(今津町)、〈寿老

神〉白髭神社(高島町)、〈毘沙門天〉大崎寺(海津町)、

(恵比寿神)川裾宮唐崎神社(マキノ町)の七福神を紹介。



『ふる里に残る揚水機』

1995年制作 / 10分36秒

制作 : 高島町文化協会民具

クリップ

用水路や川から田へ水を運ぶ揚水機の紹介映像。高

島町文化祭で展示された各

水車の映像を記録。竜骨車

(りゅうこつしゃ)、竜尾車

(りゅうびしゃ)通称さや

え・たにし、水車(みずぐ

るま)踏車、竜吐水(りゅ

ううどすい)、竜尾車模型。

実際に動かして水を揚げる

動作や水の流れる様子がわ

かる貴重な映像。

映像撮影 MAP



【遠足 vol.01】～映画『ワキノタン』の撮影地・高島市朽木針畑を訪ねて



日 2014年11月8日（土）

会場 針畑ルネッサンスセンター（滋賀県高島市朽木中牧509）

ナビゲーター

西川明夫さん

（針畑ルネッサンスセンター副組合長）

中根勇雄さん

（針畑ルネッサンスセンター組合長・京都大学芦生研究林「芦生の森」京大認定ガイド）

上映作品
『ワキノタン』

123分

製作期間2000年～2013年

企画 針畑生活資料研究会

監督 丸谷 彰

スケジュール

09:00 JR堅田駅集合（バスにて送

迎）挨拶・ガイドダンス

10:15 朽木針畑・針畑ルネッサンスセンター到着

スセンターホテル到着

10:30 映画 上映『ワキノタン』

昼食、大富神社見学

（針畑ルネッサンスセンターの地産地消のお弁当）

安曇川源流の地「生杉」・ブ

ナの原生林を散策

16:00 「山と人の博物館」見学

朽木の暮らしを知ろう！民

具の展示を解説

「山帰来」でお買い物

17:00 朽木・針畑 発

JR堅田駅着 終了・解散

日本海と京都をつなぐ、「鰐街道」。その鰐街道沿いのひとつつの集落、滋

賀県高島市朽木針畑をとらえた映画『ワキノタン』。朽木針畑で40年間に渡

り、集落に暮らす人々の生活の中にあ

る「暮らしの知恵・思い・カタチ」を記録映像として撮影してきた針畑生活

資料研究会（主宰・丸谷彰）。

今回は最新作『ワキノタン』を撮影地である朽木で上映し、その後朽木を散策し、針畑の山の暮らしに触れる「遠足」を開催しました。

JR湖西線『堅田駅』から山深い滋賀県高島市朽木針畑へ、バスの中では滋賀・京都・大阪・奈良・愛知からご参加いただいた27人のみなさんの顔合わせ時間をすごし、朽木生杉の針畑ルネッサンスセンターに到着。

映画の上映会後は、町づくりに取りくむ針畑ルネッサンスセンターの西川明夫さんにお話を聞きながら地元の大宮神社にて特産のお弁当を楽しみ、映画を振り返り。

午後は、京都大学演習林に勤務し、朽木の生態系に詳しい中根勇雄氏のナビゲートで安曇川の源流地である「ブナの原生林」まで散策しました。



朽木針烟の生活記録8
『ワキノタン』

2013年制作／123分

企画 針烟生活資料研究会
監督 丸谷 彰

製作期間 2000年～2013年

一篇「森と水」／森の生命を包み込む
木々と水
二篇「谷の恵み」／村の暮らしをささ
えた家族と谷のかかわり
三篇「トマばあととスカリ」／里の暮ら
しの食と伝承の力
四篇「つながり」／草も木も虫も、つ
なぐ祈り



滋賀県高島市朽木の生活記録を収
録した記録映像。監督の丸谷彰氏が
主宰する「針烟生活資料研究会」は
1974年から針烟を訪ね、地域の
方々との交流を重ねながら記録を続
けています。『ワキノタン』は、前
作『ハルとのの』以降、根木峠の井
戸の調査からはじまり、タン（谷）
の恵みを受けながら、気・体・知の
記憶を大切に伝えていた針烟郷の心
に魅せられた10年の記録です。」
（「ワキノタン通信」より）

【上映会 vol.01】

「結い魂（ゆいじん）』上映会とお話会 ～いきいきする瞬間（とき）～



日 2015年2月14日（土）

会場 大津市民会館 小ホール
(滋賀県大津市島の関14-1)

講演

五島智子さん（ダンス＆ピープル主宰）
長岡野亜（映画『結い魂』監督・おうみ映像代表）

上映作品

市民制作ドキュメンタリー映画
『結い魂（ゆいじん）』11分

製作期間 2008年～2011年

企画・監修 原一男
(映画監督／大阪芸術大学教授)

監督 長岡野亜（映像作家）

スケジュール

12:15	受付開始・開場
12:30	上映開始
14:30	上映終了・休憩
14:40	お話会 開始
15:10	お話会 終了

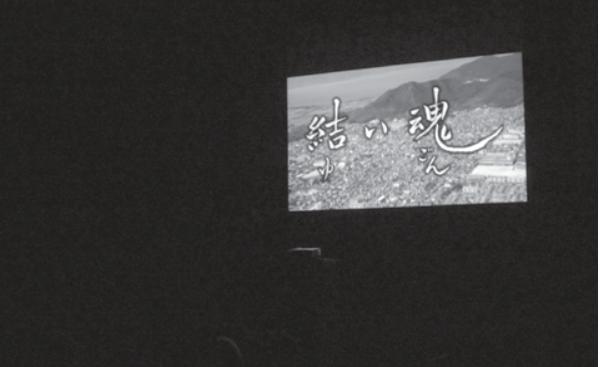
参加者を募り、1本の映画を上映し、
映画について制作者と語りあう上映会。

今年度は、大津市民会館小ホールにて、
おうみ映像ラボ代表でありドキュメンタリー映画監督の長岡野亜が近江八幡市
の地域住民と共に制作し、地域のお年寄りをテーマにしたドキュメンタリー映画
『結い魂』を上映しました。

また、ゲストとして、介護、障がい、記憶、高齢者といったキーワードで多様な人を対象に身体を通しての表現活動を企画・実施されている、ダンス＆ピープル代表の五島智子氏をお迎えし、映画上映後に島智子氏と長岡との対談を行ないました。

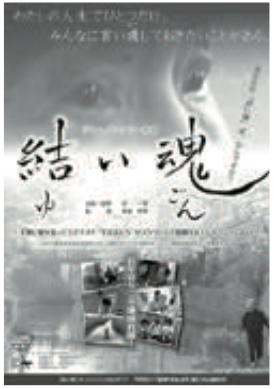
映画の内容が、六話からなる近江八幡のさまざまな高齢者の思いを描く物語で、それぞれの主人公のエピソードに興味がある多様な県民の参加がみられました。例えば、戦地で子どもを亡くした女性が、子どもを失った中国を再訪し思いを語るエピソードを新聞折込チラシで見つけた県内の高齢者女性は、戦地で同じような境遇を体験したのでぜひこの映画を見に行きたいと家族で参加され、当日、会場で戦争体験の思いを語つてくださいました。

住民自身が映画制作にかかわることによって自分自身を、自らの地域を見直し、「その場で生きる価値を再発見し生き様を発信」していく『結い魂』の作品を中心において、住民自身が想いを表現する意義について語り合う機会となりました。



「私の遺言は、もちろん身内の健康と幸せを願うとともに、
やっぱり絶対に戦争のない日本にしてほしいと、
ただそれだけを祈っております。」
—参加者さんの言葉より

市民制作トキュメンタリー映画
『結い魂（ゆいごん）』
2011年制作／117分
企画・監修 原一男
(映画監督／大阪芸術大学教授)
監督 長岡野亞 (映像作家)
製作期間2008年～2011年
1話「雨ニモマケズ。ごみニモマケズ」
2話「長光寺のお豆さん」
3話「遅咲き、乱れ咲き、こぼれ咲き
～はるえの青春～」
4話「人生甘辛く…オヤジの料理道
場」
5話「琵琶湖と、オヤジと、思い出の
スキヤキ」
6話「ごめんね、あっちゃん」



【お話会記録】

映画『結い魂』の上映とともに、お話会を開催しました。

ゲストはDance&Peopleの五島智子さん。介護、障がい、記憶といったキーワードで多様な人を対象にワークショップなど企画・実施されています。シニア対象のプログラム『大山崎とわたし』での経験をもとに、映画『結い魂』の監督で、おうみ映像フボ代表でもある、長岡野亜とお話しして頂きました。



草本利枝（写真）

の参加者の約2時間半の企画。いくつかのワークを経て、最後にペア8組がレッドカーペットの上で発

想い出の土地の川、校庭裏、神社などへレッドカーペットを持って行き、自分の思い出を語ってもらう。映像は後日贈呈。

◆2回目、5人の方のそれぞれの

思い出の土地の川、校庭裏、神社などへレッドカーペットを持って行き、自分の思い出を語ってもらう。映像

は後日贈呈。

制作期間

ワーカーショップと参加者の撮影は2日間。打合せ・情宣・人集め・下見・撮影・編集・作曲等含め、半年くらい。

企画『大山崎とわたし』の作り方

- ・じじい 京都・大山崎町
- ・参加者 60才以上の地域の方（サポート者・地域外の20～50代の方6名）
- ・だれと ナビゲーター・細見佳代（演出家）と山田珠美（振付家）、撮影・草本利枝（写真）、佐々木しう（映像）
- ・内容「大山崎でのあなたの思い出を写真や映像に残しませんか？」の呼びかけで実施。
- ◆1日目、同じ町内だけど初対面

おうみ映像フボ代表の長岡野亜 映画『結い魂』の作り方

- ・じじい 京都・大山崎町
- ・参加者 60才以上の地域の方（サポート者・地域外の20～50代の方6名）
- ・だれと ナビゲーター・細見佳代（演出家）と山田珠美（振付家）、撮影・草本利枝（写真）、佐々木しう（映像）
- ・内容「大山崎でのあなたの思い出を写真や映像に残しませんか？」の呼びかけで実施。
- ◆1日目、同じ町内だけど初対面

◆2回目、5人の方のそれぞれの思い出の土地の川、校庭裏、神社などへレッドカーペットを持って行き、自分の思い出を語ってもらう。映像は後日贈呈。

二モマケズ」、2話目「長光寺のお豆さん」、3話目「遅咲き、乱れ咲き、こぼれ咲き」はるえの青春」、4話目「人生甘辛く…オヤジの料理道場」、5話目「琵琶湖と、オヤジと、思い出のスキヤキ」、6話目「じめんね、あっちゃん」

制作期間 一年の予定が…三年半で完成（2008年～2011年）

日常的な風景の中に作られる、特別な時間

五島 智子さん、こんにちは。

Dance&Peopleの五島智子（※1）と申します。よろしくお願ひします。私は普段は障がい者のヘルパーをしています。団体の活動としては「介護している人向けのワーカーショップ」「障がいのある人とのワーカーショップ」「目の見える人・見えない人との活動」などで、シニアの人との活動は7年ぐらい前からで「わたしの道」プロジェクトという名前で、2010年に京都府の大山崎町で、「土地の記憶、身体の記憶」というテーマで取り組んだ「大山崎とわたし」という企画を少し紹介させていただきます。

発掘・表現・発信していく人材が育つことを目標に、2008年に発足した「YUI-GONプロジェクト」によって制作された。一人ひとりのお年寄りを題材にした、次世代に伝えたい、6話のオムニバス・メッセージ集。1話目「雨ニモマケズ。ごみ

同じ町内だけど初対面の参加者の約2時間半の企画でして、ワークを経て、最後にペア8組がレッドカーペットの上で「カーペットの一番奥で子供の頃の遊びを再現する」「真ん中辺りで幸せだったこと・辛かつたことを語

る」「一番手前で、現在の気持ちを語る」という3つのエピソードを披露し、最後に記念撮影します。2日目には、五人のの方のそれぞれの思い出の土地へレッドカードを持つて行き、そこで自分の思い出を語ってもらいます。

ナビゲーターがお話を聞いて、インタビューに答えるという流れです。例えば1人の女性は小学校の先生だったのですが、いっぱい歌を作ったり、音楽セラピーなどをされてきました。そこで、思い出の小学校の校舎裏に行つて、ナビゲーターがお話を聞いて、インタビューに答えてもらいました。これを映像と写真に残しています。

し撮れなかつたなあ、では来年！そういう感じで1年延び、2年延び、3年後に記念撮影します。2日目に思い出の場所に行つて語つてもらうのも、前日に下見はするんですが、もうそこで雨が降つてたりしても、ぶつつけ本番で、その時・その場で立ちあつた人たちだけが共有する「ちいさな舞台空間」になります。一回性・ライブということがダンスや演劇などの舞台表現の特徴ですが、何度も見ることができます。今、ご覧いただいた映画「結い魂」を作りました長岡野亞（※2）です。これは私が1人で作った映画ではなく、滋賀県近江八幡市を舞台に、出演している人も近江八幡在住の方で、作り手も市民の方で映像を作つたことのない、でも興味があるという方たちと一緒に3年半かけて作りました。なかなか映画つていうのは時間がかかりますし、また、たくさんの方々が出演されていますので、「入院したから、じゃあまた半年後に」といったこともあります。映画の1話目の八幡堀を掃除していた白井さんはほとんど毎朝掃除しているということで、365日という時間を四季という像で表現したい。冬やつたら雪のシーンがいるなあ、今年は雪が降らなかつた

の準備が大変というのはいつも思っています。こういう映画を作ろう！と始まり、3年半かけて作つたということを経ち、「映画、いつ出来るやろ」と言いつつ、みんなでお尻をたたき合いながら、何とか完成に至りました。

近江八幡には、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA（※5）というのがあつて、私も何回も通つてるんです。が、この映画も近江八幡を取り上げているし、この地域すごい！どうしてできたんやろうか？ということが、すごく興味あります。

長岡 「映像」というのは、いわゆる画と音という情報が入つてます。近江八幡に「マルチメディアセンター」というところがあり、そこではパソコン教室もありまして、地域の人たちは映像で地域のことを発信したり、面白いことやりたいな、という思いを持っておられました。私が近江八幡で『ほんがら』（※4）という祭りを地域の方が復活させるドキュメンタリー映画を作つたんですがその後に、子ども映画ワークショップをやつたんです。今の子どもは塾や学校のクラブがあるためか、最初は3人ほどしか集まらず、募集中範囲を小学校高学年・中学生と広げると、子どもたちが10人ぐらい集まりました。引きこもりや不登校です、という子どもたちが多かったのです

が、「どんな映画を作りたい？何をしたい？」と聞いたたら、いろいろ意見が出て、子どもたちがシナリオ原案を考えて『タイムカプセル・アドベンチャ』という映画ができました。

五島 先ほど紹介したワークショップ「大山崎とわたし」だつたら、2時間半で発表という（笑）。2日目に思い出の場所に行つて語つてもらうのも、前日に下見はするんですが、もうそこで雨が降つてたりしても、ぶつつけ本番で、その時・その場で立ちあつた人たちだけが共有する「ちいさな舞台空間」になります。一回性・ライブといふことがダンスや演劇などの舞台表現の特徴ですが、何度も見ることができます。今、ご覧いただいた映画「結い魂」を作りました長岡野亞（※2）です。これは私が1人で作った映画ではなく、滋賀県近江八幡市を舞台に、出演している人も近江八幡在住の方で、作り手も市民の方で映像を作つたことのない、でも興味があるという方たちと一緒に3年半かけて作りました。なかなか映画つていうのは時間がかかりますし、また、たくさんの方々が出演されていますので、「入院したから、じゃあまた半年後に」といったこともあります。映画の1話目の八幡堀を掃除していた白井さんはほとんど毎朝掃除しているということで、365日という時間を四季という像で表現したい。冬やつたら雪のシーンがいるなあ、今年は雪が降らなかつた

地域で、地域の方と取り組むこと

五島 こういう映画つて、完成した作品を見たら、できたことが当たり前のみたいな感じで（笑）見てしまうんですね。私もどつちかというと、制作やプロデュースという裏方で、「どのようにお金を集めくるか、人を集めめるか、撮影場所の許可はどうするか」など担当します。特にシニアの方は信用した人が言わない限り、チラシを見ただけでは、ほとんどの方は来られません。作品づくりに入るまで、アーティストと参加者に出会つてもらうまでの、そ

もし、この時に子どもたちがたくさん集まっていたら翌年も「じゃあもう一回やろうか」となるんですが、そうじゃなかつたので「今度はシニア対象でやつてみよう」となりました。映画監督の原一男さんという、ドキュメンタリー映画とかいろいろな映画を40年くらい、いろんな映画を作つておられて、『ゆきゆきて、神軍』という代表的な映画を撮られた監督が先生として関わつてくださつて、原監督が、大先輩の映画監督である新藤兼人さんの「どんな人でも、1本の映画の主人公になれる。1人の人間の一生はそれだけの可能性を秘めている」という話をしてくれました。この言葉をヒントに、有名な人ではなく、すくはちゃんとやな人生でもないけど、長い間生きてこられた方に「人生どうでしたか」と下の世代の人たちが話を聞くこと、近江八幡で生まれ育つたり、よそから越してこられたり、近江八幡在住のいろんなお年寄りが登場するような映画にしていこうということで、「結い魂」という形になつたんです。聞いておかなければ消えてしまう記憶や知恵があるはずです。そこには近江八幡や日本人の共通する美意識や価値観が見えてくるだろう、という思いもありました。最初は「遺す言葉」という漢字で「遺言プロジェクト」としていたんですが、映画に登場していくたゞく方と話を進めていく中で「まだ死なないしなあ、遺言で…」っていう話もあつて御家族にも不評やつたので、ローマ字で「Y

人生のことについて
聞く、語ること

五島

レッドカーペットって、カンヌ映画祭とかで敷かれるイメージが一般的にはあります

に、「いろんな人が登場しながら、が

なかつたので「今度はシニア対象でやつてみよう」となりました。映画監督の原一男さんという、ドキュメンタリー映画とかいろいろな映画を40年くらい、いろんな映画を作つておられて、『ゆきゆきて、神軍』という代表的な映画を撮られた監督が先生として関わつてくださつて、原監督が、大先輩の映画監督である新藤兼人さんの「ど

んな人でも、1本の映画の主人公になれる。1人の人間の一生はそれだけの可能性を秘めている」という話をしてくれました。この言葉をヒントに、有名な人ではなく、すくはちゃんとやな人生でもないけど、長い間生きてこられた方に「人生どうでしたか」と下の世代の人たちが話を聞くこと、近江八幡で生まれ育つたり、よそから越してこられたり、近江八幡在住のいろんなお年寄りが登場するような映画にしていこうということで、「結い魂」という形になつたんです。聞いておかなければ消えてしまう記憶や知恵があるはずです。そこには近江八幡や日本人の共通する美意識や価値観が見えてくるだろう、という思いもありました。最初は「遺す言葉」という漢字で「遺言プロジェクト」としていたんですが、映画に登場していくたゞく方と話を進めていく中で「まだ死なないしなあ、遺言で…」っていう話もあつて御家族にも不評やつたので、ローマ字で「Y

UIGONプロジェクト」にしたんです。映画ができるタイトルを考える時に、「いろんな人が登場しながら、が1本の映画となる、いろんな人たちの魂が結ばれる」ということで『結い魂』という漢字のタイトルになりました。



る人が、全員感動して泣いてる、みたいなことになるんですね。シニアの方の体の中にある宝というか、自分が宝を持つてて立つてもらつただけで、いろんなものが立ち上がつてくるんですよ。それはどんな人でもです。寝たきりのような人も、身体に蓄積されています。レッドカーペットの上に乗つててただくだけで、いっぽい伝わつてくるものがあります。さつきおつしやつてたみたいに、特に表現の練習をした、演劇経験があるということではなく、「どういう出会いでそこに立つてもらえたか」という「過程・関係」なんですね。この人の縁で、なんか分からんけどちょっと来てみた、まず会つてみましょみ

ね。そこで突然、ウワアとよみがえつてきて止まらなくなつたりする方もいらっしゃるんんですけど。そして最後に20分ほどの発表を、1組あたり2分り3分と短いんですが、どんなことを語り道にやつたかというのを、例えば紙にやつて見せて、最後にぐるつと回つてポーズを取りましょ…という、誰

でも出来るようなシンプルなものです。でも、その瞬間に、その現場にい

みたいな。普段しがらみがあつたり、こんなことしたらカッコ悪いんぢやうか、派手なことしたらアカンのぢやうか、とかいろいろあると思うんですが、日常と違う場で、映画の人とかアーティストと出会うと、その人が普段は隠してるとか、眠つてるようなものが、出会いによつてフツと出てくるんですね。本人はそれが良いかどうか?とか、なんとも思つてないかもしれないですが、それを展開していくで、例えば映画の中でなら、3話目の社交ダンスの女性がダンスパーティに出来られましたが、最初から出ることにはなつてないですね?あと、6話目の中国に行くのも最初から行くことにはなつてないですね?

ティストと出会うと、その人が普段は隠してるとか、眠つてるようなもののが、出会いによってフッと出てくるんですね。本人はそれが良いかどうか？とか、なんとも思つてないかも知れないんですが、それを展開していくつて、例えば映画の中でなら、3話目の社交ダンスの女性がダンスパーティに出られましたが、最初から出ることにはなつてないですよね？あと、6話目の中国に行くのも最初から行くことはなつてないですよね？

長岡 五島さんの「レッドカーペット」の上に乗つたら、いろいろ出てくるんですよ」という話もありましたが、映画の場合はまずその場を、非日常の場所をセッティングする「仕掛け」がレッドカーペットと同じだと思うんです。映画の4話目の「オヤジの料理教室」もまさに共通してますよね。レッドカーペットをひいて、おやじさんたちが、1人ずつ遺言を言うのも1つの仕掛けです。最後、6話目の中国へ行つた富田さんも、レッドカーペットでは

仕掛け、 舞台

長岡 五島さんの「レッドカーペット

一
同

かんななと思いましたね。

いてもらうという方法を取っているんですね。だから、中国へ行きましょうと言つたんですが、家族の方が「90歳のおばあさんを中国に連れてつてどうすんの、もし死んだらどうすんの」と怒つて反対されたんです(笑)。だけど、富田さんが「私、行きたい」と、家族の心配する気持ちも分かりますし、どうしよう?と考える時間がありました。結局、家族の方が「だつたら私らもついて行く」ということになり、富田さん、富田さんの次女、3女の娘さん(富田さんの孫)、3世代、女性3人で中国へ行くことになりました。

長岡 映画を3年半かけて作って、近江八幡の1000人が入る大ホールで上映したんですが、富田さんが1人で300人ぐらい人を集められたんです。もともと小学校の先生だったので、いろいろつながりは持つてはるんですけど。富田さんは「中国で亡くなつた長女は戸籍にも載つてないし、自分が伝えないとその存在 자체が消えてしまう」と考えられて、この映画に出演する強い思いを、この映

家で「その人は昔ああだつたよ、こ
うだつたよ」というインタビューを
聞いて終わるという方法もあるんですね
が、そうではなく、この映画では、実
際にその思いを実現してもらう、動

なくて「中国という舞台」に入り込む、行ってしまうということ 자체を、映画として一緒に作っていき、福田さんの気持ちが溢れ出るところを私たちがカメラで受け止めていく、それが皆さんに見ていて

画を多くの人にぜひ見てもらいたいとした。そんなこともあって、映画の一番最後の登場になつたんです。昔の教え子やいろんな人に電話して、1人で300の方をを集め、たくさんの方に見ていただけたことをすごく喜ばれました。「本当にありがとうございます、お仏壇のおじいさんと亡くなつた娘に報告します。」と感謝の言葉を貰いました。上映が終わり、「これから一緒に映画上映をやっていきましょうね」と言うてたんですが、1ヶ月後に亡くなられました。御家族の方は中国へ行くことを最初は反対されたと言いましたよね。彼ら、お通夜へ行つたんですが、「花舞台に立たせていただき、ありがとうございます」と言つていただきました。私は映画を作ることを通して、冨田さんの思いが遂げられたからこそ、周囲も変化していくということを体験しました。映画はいろんな出会いがある中で、いろんな出来り方があるので、毎回そんな体験が出来るものでもないんですが、この映画ではそういう体験をさせてもらいました。

好きでした。今回、映画の中で、皆さんが一人ずつ遺言を言つていかれる、男性の料理教室の場面で初めて涙が出てきたんです。私はまだ若いですが、遺言を残すことになつたら、どうしても「何となく私自身のことを残したい」というか、そんな言葉しか自分の頭に出てこなくて、例えば私を忘れないでほしいとか出てくるんですが、皆さんは誰かのことを思つて言葉を残されていたのがすごく印象に残つています。

参加者男性B 簡単なことなんですが、でも、映画の第1話、第2話、第3話の順番、それはどうやつて決められたんですか。こうでなくちゃだめだという理由か何かあるんでしようか。

長岡 いろんな方を並行して撮つてるので、そのときは順番を考えてはないんです。映画は6つのお話をあります。作り方として、まず近江八幡で70歳以上の方、あなたの遺言、思いを映画にしませんかというのを新聞で募集したんですが、集まらなかつた。五島さん

も言つたはりますよね。集まらなかつたんですよ(笑)。唯一、応募して来られた人がダンスを踊らされていた第3話の奥川さんという方で、「私の人生でよければ何か映画に貢献させてください」ということで御連絡をいただきました。あとは、自分たちの足で探しで、いろんな出会いを通じて、「ああ

うですが、集まらなかつた五島さん集作業も、スタッフみんなで意見や知恵を出し合い「この人はこうやろね」とか、考えていく、私はその全体進行です。一応、監督みたいなつてるんですが、「みんなで作った」映画です。御質問いただいた順番についてですが、編集のときにそれぞれのエピソードをまとめていきますと、やっぱりここがいい、というような落ち着きどこ

会場の感想

参加者女性A 私も介護職を昨年までしてましたので、おじいちゃん、おばあちゃんのお話を聞くのがすごく

魅力的な人だな」「ああこの人映画にしたら面白いな」と思った方に、「映画に出ませんか、撮つてもいいですか」と聞く、「OKです、撮つてください」という答えをもらうことで関係が成立するんです。「映画」という形に残るのは奇跡的に残つた人たちです。映画にならなかつた人たちもいるんです。ちょっと撮影したり話を聞いたりしても、御家族の方が「もう半分ばけてるのに恥ずかしいから映画に出たらあかん」と言つたり、本人は別にいいんだけど「息子がああいうからやつぱり止めときます」みたいな感じでお断りされる（笑）。映画づくりを3年半やつてますと、学生だったスタッフが卒業して滋賀を離れることになつたので継続できなくなる、ということもあります。相手の方との関係性でこの映画づくり、撮影ということが成立しているので、その関係性が無くなると難しくなります。各スタッフが6話それぞれの担当になり、主人公の方々と話をし、思いを聞き出し、撮影、編集という工程になります。たくさん撮つた映像をどう物語として作つていくかという編集作業も、スタッフみんなで意見や知恵を出し合い「この人はこうやるね」とか、考えていく、私はその全体進行です。一応、監督みたいになつてるんですが、「みんなで作った」映画です。御質問いただいた順番についてです。が、編集のときにそれぞれのエピソードをまとめていきますと、やっぱりこれがいい、というような落ち着きどこ

ろが決まつてくるんです。八幡堀の四季がすごくきれいで、近江八幡を紹介するには白井さんは1話目にあるといかな、戦争の話で重たい感じもあるし富田さんは最後の6話目がいいとか。みんなで試行錯誤しながら決めていつたという感じです。



一同 (拍手)

女性C こんなちは。私新聞の折り込みで知りました。体調が悪く、手術をしないといけないんですが、そんなときにはチラシを見まして、「遺言となるとどういうふうなことを娘たちに残したらいいのかな」と思つたのと、6話の富田さんの満州のことがチラシに書かれてて。私は満州で生まれ、5歳のときに引き揚げてきたんです。今日の映画に誘つた姉が、青春

女性C こんちは。私は新聞の折り込みで知りました。体調が悪く、手術をしないといけないんですが、そんなときにはチラシを見まして、「遺言となるとどういうふうなことを娘たちに残したらいいのかな」と思つたのと、6話の富田さんの満州のことがチラシに書かれてて。私は満州で生まれ、5歳のときに引き揚げてきたんです。今日の映画に誘つた姉が、青春

時代、満州の思い出がすごくあって、この姉がいてくれたから私も残り孤児にならずに連れて帰つてもらつた、ということもあり、すごく興味深かったのと、どうしても姉を誘いたかったので、今回、姉と参加させていただきました。ちょっと姉にも一言言つてもらいますね(笑)。

女性D ちょっと足が悪いので、失礼ですけど座つてお話をさせてもらいます。今、妹から紹介がありましたけれども、私も実はこれ新聞のチラシで見て、よせてもらいたいなど思つて机の上にずっと置いてたんです。そしたら妹から誘いがありましたので、そいじゃ2人で一緒に行こうか

いうことで、今日参加させていただきました。今も妹が話しましたように、私は一番最後の富田さんの気持ちが、本当に切実に自分の身に降りかかつてきつたこともありますし、これからも日本行く末のこと、えらい大それた

言い方ですが、やっぱり戦争というものは、たとえ相手がどこの国であれ、決していいものではないと思つてあります。たくさんの犠牲者が出ます。戦つている人はもちろんのこと、残された人たちにも多大な惨事が起ります。私の遺言は、もちろん身内の健康と幸せを願うとともに、やっぱり絶対に戦争のない日本にしてほしいと、ただそれだけを祈つております。大変失礼いたしました。

長岡 ありがとうございました。ここで遺言を言つていただけるとは。

五島 最後にすばらしいことを言つていただけましたね。

長岡 3年ほど前、東近江に平和祈念館が出来ました。6話の富田さんと一緒に撮つていたスタッフの人が今、そ

こで戦争体験をされておられる方々の話の聞き取りをして、映像に残していく活動をされてるので、またぜひ残していただければと思います。足がお悪く活動をされてるので、またぜひ残していただけば

言葉以外の、
体からも伝わつてくるもの。
残すということ

五島 今日はありがとうございました。最後におっしゃつたことも、私もすごく思つてはいるんですけど、このパンフレット(※6)に、人生のアルバム本というのを作る企画や、思い出の品物を持つてきいろいろ聞き合う会があるんですが、若い人がなかなかお年寄りのお話を聞く、その機会っていうのが本当にないんだろうなと思っています。だからそれは積極的に、お話を聞くことがすごく大事だなと思っています。先ほど、会場から

感想で男性の料理道場の方のお話がすごく感動したというふうに言われたと思うんですが、「見る人がどんなことを普段感じてるか」ということによつて、この映画の6つの中どれが一番印象に残つたか、気になつたかというのには、人によつてすごく違うだろうなと思うんです。ただ、言葉でこうでこそうでこうでつていうふうに言わないけれども、その人が普段、体で行つていることというか振る舞いというか、どういうことをされてるかっていうことが、もう遺言として受け取れることもあるなあ、と思うんですね。

長岡 言葉以外の、体からも伝わつてくるものが。

五島 そうです。逆に言葉でいくら何か言われても「へえ」みたいな人が（笑）、あんたの言つのは信用できひんみたいな（笑）こともあるかもしねない。どちらにしても相手、特にシニアの方から聴くという、そういう感覚を次世代である私たちが持つ、私もすぐ、ほとんどシニアに突つ込みかけてますけど（笑）それがすごく大事だなどいうふうに思つてます。

長岡 先ほどの会場からのお話にもありましたけど、「じゃあ残すつていたら何を残すのかな」つて考えますよね。実は私の母親がつい最近がんになつて、じゃあ母親のことを残さんとつて急に思つたんですね。今までは母の存在を当たり前のように思つてた

んですけど、今まで他人ばかり撮影してたので、今度は自分の家族のことを撮り始めています。でも、じゃあ何を残したいのかなっていうのは、試行錯誤中です。一緒に住んでいたり、家族というつながりがあつても意外と普段しゃべらないもんですね、あんまり本音とかね。何となく日常では、一緒にご飯食べてやり過ごしていますけども、本当にどう思つてるとか、どうしたいとか、人生どうとかという話はなかなかしないですね。大切な人、身近な人の人生を知りたい、という思いが沸き起つて、それを映像で残す。映画をつくるということがきっかけとなり、話をする場が生まれる。そのときに、他人である家族であれ、話す方も、相手が一生懸命聞いてくれると一生懸命話してくれます。きっかけができることで、「ああ、そんなこと思つてたんだ」と、その人の人生について初めて深く知る触れることができます。これからもいろんな方と出会つていく中で、どういうふうに関わつて、その存在を受け止めていくかということを、映画を作りながら考えたいと思っています、みなさんもぜひ大切な人に寄り添い、話を聞いてみてください。

〈注釈〉

※1 長岡野亞 映画「結い魂」監督・おうみ映像ラボ代表

※2 五島智子 Dance & People 代表
約50年前に途絶えた「ほんがら松明」が復活していく様子をとらえた映画。2008年に完成。第14回平和・協同ジャーナリスト基金・新人賞などを受賞。近江八幡映像プロジェクト
<http://5620cinema.net>

※3 「大山崎とわたし」 文化庁地域文化芸術振興プラン事業・催しについてのレポート http://blog.canpan.info/d_a/p/category_30/
※4 『ほんがら』 近江八幡市島町でNO-MA 2004年6月、滋賀県近江八幡市に開館したミュージアム。
※5 ボーダレス・アートミュージアムロジェクト発行『シニア世代の大好きな今に贈る心と体の輝きプログラム』
・わたしの道プロジェクトブログ
<http://blog.canpan.info/watashinomichi/>

2015年2月14日 大津市民会館



〔おうみ映像ラボの活動にご注目ください〕

Facebook ページ

www.facebook.com/omieizo.lab

Twitter ページ

https://twitter.com/omieizo_lab



平成26年度滋賀県「美の滋賀」
地域づくりモデル事業

お問い合わせ

omieizo_lab@yahoo.co.jp

写真撮影

金東薰、大藤寛子、
藤野ひろ美、大原歩

デザイン／大原歩

2015年3月31日発行

企画・制作・発行
おうみ映像ラボ

おうみ 映像 ラボ

2014

BOOK

vol.1

協力 (順不同)
高島市教育委員会、
（株）金壽堂、結びめ、
風と土の交藝プロジェクト
チーム、（株）モアイ、
福田屋プロジェクト、
針煙生活資料研究会、
針煙活性化組合、富田知子、
地蔵プロジェクト、中川豊一、
山本晃子、丸谷彰、西川明天、
中根勇雄、五島智子

（株）金壽堂、結びめ、
風と土の交藝プロジェクト
チーム、（株）モアイ、
福田屋プロジェクト、
針煙生活資料研究会、
針煙活性化組合、富田知子、
地蔵プロジェクト、中川豊一、
山本晃子、丸谷彰、西川明天、
中根勇雄、五島智子

